



2017年2月号（1月20日発行）

平成29年「新年のつとい」が行われました

去る1月7日（土）大野地区自治協議会が主催する、平成29年大野地区新年のつといが盛大に開催されました。

当日は、朝長市長様をはじめご来賓と、地域からは約250名の皆さんが参加され、新しい年の地域づくりに向けた意見交換などが行われました。

連合会婦人部の皆さんから、毎年大好評の温かいおでんが振る舞われ、和気あいあいとおいしく交流を深めました。

ご参加いただいた皆さん、婦人部の皆さん、たいへんお疲れ様でした。今年も大野地区自治協議会の活動にご支援、ご協力を頂きますようよろしくお願いいたします。



（新年のつといの様子）



（主催者 森会長のあいさつ）



（語らいの時間）



（日本支所長万歳三唱）

大野地区公民館に立派な門松ができました

今年のお正月、大野地区公民館の玄関にとっても立派な門松ができました。昨年まで、公民館講座で門松づくり教室を開催して頂いていた、上楠木の吉田淳次館長にどこよりも立派な門松を作って頂きました。

今年一年、大野地区が安全・安心で、よい一年になるよう心からお祈りいたします。



「地域コミュニティ」について考えてみよう

「地域コミュニティ」ってなに？

日常生活のふれあいや共同の活動、共通の経験を通して生み出されるお互いの連帯感や共同意識と信頼関係を築きながら、自らの地域を地域住民みんなの力で自主的に住みやすくしていく。そうした地域社会のことです。

大野地区には、町内会や子供会、老人会、青少年健全育成会、民生委員児童委員会、青壮年会、婦人会、消防団、PTAなどの活動団体があります。



今、なぜ地域コミュニティなの？

① 地域コミュニティ力の低下

社会情勢の変化に伴い、かつて存在した相互扶助の精神や共同的な秩序、地域の連帯感が低下しており、生活の個人化がより一層進んでいます。結果、地域のコミュニティ力は低下し、人間関係の希薄化や地域活動に対する無関心化が進行しており、こうしたことが、育児や教育に悩む親の増加や、独居老人の孤独死といった様々な課題を作り出しています。

② 厳しい財政事情

人口減少に伴う歳入減少、医療・介護や年金などの社会保障費の増大など厳しい財政事情のもと、これまでのように全てのサービスを市が一手に担うことは困難な状況となってきます。自らの地域のことは、地域自らが考え行動することが求められてきます。

③ 複雑多様化する住民ニーズへの対応

複雑で多様化する住民ニーズに対応するためには、今までのような行政主導で画一的な手法では無理があります。地域の抱える課題は、その地域によって多種多様であり、特に地域に密着した課題は市だけで解決できるものではありません。地域に必要なサービスを、住民と地域、市が連携を取りながら、それぞれの役割を持った協働のまちづくりが必要となっています。

佐世保市地域コミュニティ推進計画

社会情勢の大きな変化、厳しい財政事情、複雑多様化する住民ニーズへの対応などの課題解消に向け、佐世保市は、第6次総合計画後期基本計画の重点プロジェクトの一つとして「地域の絆プロジェクト」を位置づけ、町内会の活性化など地域コミュニティ活性化に向け「地域コミュニティ推進事業」を推進し、その推進指針のなかでモデル事業を実施することとして大野地区自治協議会がスタートしました。

① 大野地区自治協議会

大野地区自治協議会は、地域が一体となって地域諸課題に対処するとともに、豊かで活力ある地域コミュニティを実現していくための推進母体とするため、地域を代表する新たな市民団体として設立されました。

大野地区自治協議会は5つの部会があり、大野地区町内公民館連合会など25団体が参加しています。部会会議や理事会を設けて、部会や各団体の情報共有化など効率的な地域活動を展開できる仕組みを作っています。

② 地域コミュニティ計画(まちづくりの指針)

地域の課題を地域住民みんなが共有し、この課題解決のための将来ビジョンとして、「大野地区まちづくりの指針」を策定しました。指針では、三つのまちづくりの目標と五つの活動指針を示しています。

入-ガソ 「ひとよし まちよし 明るい大野」

